

オオタカはどんな鳥？



オオタカはタカ科ハイタカ属の中型タカ類です。全長約50cm (カラス大)。

平地や丘陵地、山地などの森林に生息しますが、森林のみが連続する環境よりも森林と開けた場所が入り混じった環境を好むとされています。肉食性で、他の鳥や小さな哺乳類(ネズミなど)を捕食します。

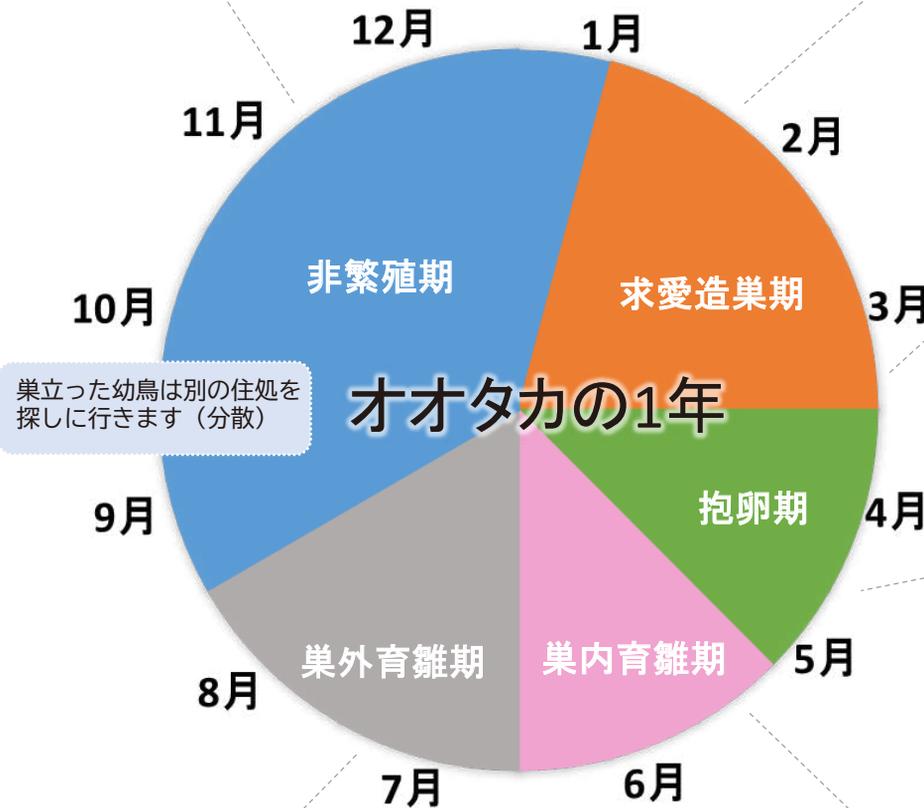
1990年代には絶滅が危惧されていましたが、近年では分布を拡大し、都心でも繁殖が見られるようになりました。



園では8月になると親鳥、幼鳥ともに1度姿を消す。9月にはオスと一部の幼鳥が戻り、水浴びをする姿などがしばしば確認される。



1月から3月にかけて、求愛行動と並行して巣造りを行う。前年までの巣を使う場合も、新たに巣材を運んでくる。



通常、4月から5月にかけて巣の中心に卵を産み、孵化するまで抱いて温める。



卵を抱くのは、ほとんどがメス。オスはメスの分のエサも取ってくる。



幼鳥の姿。初めて巣の外へ出た後は段々遠くで過ごすようになり、やがて巣へは戻らなくなる。



産卵から40日程度で孵化。ヒナが大きくなるとメスも狩りに出かけるようになる。

自然教育園でのオオタカの繁殖



自然教育園で初めて繁殖行動が確認されたのは2017年のことです。この年はアカマツに営巣し、2羽のヒナが生まれるもすぐに消失してしまいましたが、翌年からは繁殖に成功し、2018年から2023年の6年間で15羽のヒナ(幼鳥)が巣立ちました。なお、2019年にはカラスの影響により、以降はスダジイの巣で繁殖を続けています。

オオタカの繁殖には、営巣できる大きな木のある森と周囲に狩りができる環境が必要です。8年間続けて繁殖行動が行われている自然教育園は、都心においてオオタカが繁殖できる環境を有するという点でも重要な緑地といえます。

2017～2018年：アカマツの巣



2017年6月

自然教育園、最初のヒナ。生後まもなく、カラスによって捕食されたと見られる。



2018年6月

2017年に失敗したアカマツで再び営巣。この年はカラスなどのトラブルもなく、無事に2羽のヒナが巣立ち、繁殖は成功。



2018年7月

2019年～2023年：スダジイの巣



2019年6月

アカマツの巣をカラスに壊され、スダジイへ移転。その後は無事に2羽が巣立った。



2021年5月

新しい巣を作るも放棄して元の巣へ。他動物の襲撃があり、4羽中1羽のみ巣立った。



2023年5月

途中でヒナが失われることなく、園で初めて4卵4羽全てのヒナが巣立った。

2024年：現在の状況



2024年4月時点では、昨年までのスダジイ巣での繁殖は、残念ながら確認されていません。どうやら園内に他の巣を作り、そこで繁殖を続けているようです。そのため、今年は昨年のようにライブで巣の映像をお見せすることはできません。その後の調査で状況が分かり次第、この展示コーナーでお知らせしていきます。

オオタカの子育ても楽しめない？



カラスとの戦い

カラスはオオタカの餌となる鳥類の一種ですが、同時に昔から繁殖の障害として知られていました。1対1ならともかく、集団で行動するカラスに狙われてしまうと追い払うことも難しいようです。自然教育園においても最初の年にヒナが襲われた可能性があるほか、その後も度々繁殖の妨げになっています。



2019年3月



2020年1月



2023年4月

巣造り中の巣に襲来し、巣材を次々と持ち去った。幸い、繁殖自体は別の巣に移り、成功した。

巣を移った翌年以降も度々集団で飛来。巣造り期に巣の中に入るも壊すまでは至らなかった。

2023年には、抱卵中の巣に接近。親鳥は抱卵を中断し、空中でカラスを追い払っていた。

夜の襲撃者たち

オオタカの繁殖の妨げになるのは、日中のカラスだけではなく、夜に活動する動物たちもまれにオオタカの巣に襲来することがあります。2021年にはそれによってヒナが失われたこともありました。繁殖中の親鳥にとっては、夜でも全く気が抜けません。



フクロウ



アオダイショウ



ハクビシン

抱卵中の巣にフクロウが飛来。抱卵中のメスに攻撃し、追い払われた。2023年は特に多く、6回の飛来を確認。

2021年5月の深夜にアオダイショウ、ハクビシンが続けざまにヒナがいる巣を襲撃。捕食まではされなかったが、攻防で傷ついたのか、翌朝に4羽中3羽が消失してしまった。



ハクビシンの溜めフン



登りこみ防止のトタン板設置

トタン板



フンを払うオス

少量のフン

ハクビシンは繁殖の終わった時期の夜にもやってきて、巣をフンで埋めてしまうことも。職員らでフンの除去やハクビシンの伝う周りの低い枝の剪定、登りこみ防止の仕掛けなどを行ったところ、ハクビシンはほとんど来なくなった。少量のフンが残ったが、オオタカ自身が払い落す、あるいはその上に巣材を積んで巣造りを続行した。少量ならそれほど影響はないのかもしれない。

巣作り（求愛・造巣期）



1月に入ると、オスとメスの両方が園内で見られるようになり、巣作りが始まります。巣の近くで求愛行動や交尾もするようになり、この時期を「求愛・造巣期」と呼びます。

オオタカの巣は木の枝を組んで造られます。巣作りが進むと、マツやスダジイなど葉のついた枝（青葉）や木の皮（樹皮）を運ぶようになります。青葉や樹皮は産座に敷き詰められ、卵やヒナを保護する役割とされます。

※ 産座：巣の中心のくぼみで、卵を産む場所

2023年を例に、巣作りの過程を順番に見ていきましょう。



木の枝を巣に運ぶメス

1月1日巣作り前



昨年の繁殖後、ほぼ手が入っていない。中心にあるのはハクビシンのフン。

1月19日



メスが初めて巣に飛来。フンを一部払いのけつつ、枝を積んでいく。

1月29日



オス、メスともに巣材を運ぶ回数が増え、巣の輪郭が見え始める。

2月5日



巣材を運ぶ回数が増え、日に日に巣が大きくなっていく。

2月15日



太い枝は巣の枠組みとして円状に、細い枝は中心部で平らに敷かれている。

2月28日



中心部のくぼみが深くなり、お椀のような形状になる。

3月5日



マツなどの葉を底に敷いて、産座を造り始める。

3月15日



1月から巣の厚さ、幅ともに大きくなり、親鳥が立つとカメラから見切れるほどに。

3月27日(産卵2日前)



産座が広くなり、樹皮のかけらが運ばれるようになる。産卵の準備はほぼ完了。

産卵と抱卵（抱卵期）



オオタカの産卵

通常、4月から5月にかけて最大で5卵まで産卵します。2022年、2023年は通常より少し早く、3月下旬に最初の産卵が行われました。オオタカは一度に複数の卵を産むのではなく、一つ産むごとに数日の間隔を空けます。

巣上のカメラからでも卵を産んだ瞬間を見ることは困難ですが、いつ産んだかを調べることはできます。座り込んだ姿勢から体を起こし、「ピッピッ」と甲高く短い声で鳴くようになるのがオオタカの産卵の合図です。



1卵目の産卵直前。
足をたたんで産座に座り込んでいる。



体を起こして産卵の姿勢に。鳴き声のほか、時折、力むように体を揺らす。



産卵後はまた座ってしまうが、時々座る方向を変えると卵確認のチャンス。

オオタカの抱卵

孵化するまではメスを中心に約40日間、抱卵します(卵を抱いて温めること)。オスはメスの分の餌も狩りに行き、メスが餌を食べに離れた際には代わりにオスが抱卵することもあります。

抱卵が本格化すると、オス、メス合わせて1日のほとんどの時間(95%以上)抱卵していますが、産んだ卵の数が少ない時期は巣にいても長い時間抱卵しないことがあります。これは、それぞれの卵の孵化日が大きくずれないように、初めの方に産んだ卵の抱卵時間を少なくして調整していると考えられています。

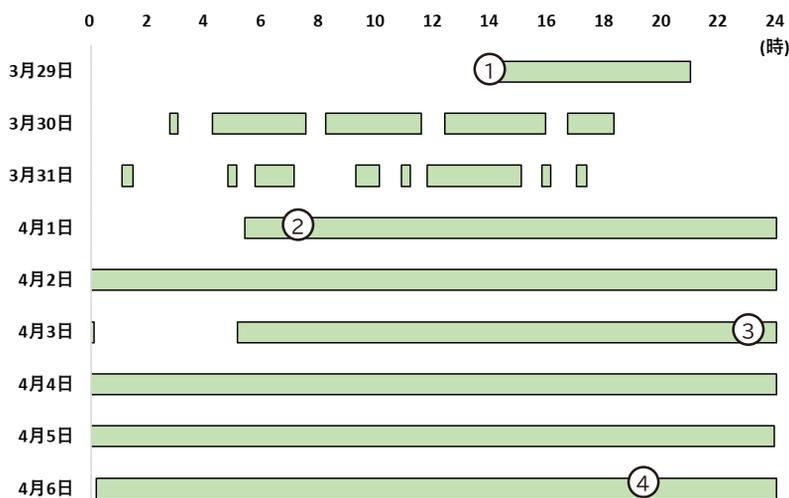
2023年の最初の産卵から最後の産卵日までの抱卵時間を整理すると、夜間から早朝にかけて、特に0時～5時で抱卵しない時間が多いことがわかりました。外敵の少ない夜間に、抱卵時間を調整していることが考えられます。



メスに代わり、一時抱卵中のオス



4月1日深夜の様子
巣にはいるが、卵から体を離している



3月29日～4月6日における抱卵時間帯の推移(①～④:各産卵日時)

ヒナの誕生と成長（巣内育雛期）



1卵目の産卵から約40日後、最初のヒナが誕生します。ヒナは幼鳥となり、巣立てるようになるまでずっと巣の中で過ごします。

ヒナの誕生

園でヒナが初めて見られた日の間隔は、年によってまちまちで、2020年と2021年は1日ごと、2022年と2023年は1羽目と2羽目の間隔が短く、3羽目以降はそれぞれ2日ほど間隔が空いています。

生まれたばかりのヒナは写真のように濡れており、数時間経つと、白くふわふわとした毛玉のような姿となります。生まれて2週間までが特に危険が多い時期です。過去にはこの時期に他動物の襲撃、大雨による衰弱などで一部のヒナが失われました。

年毎のヒナの初確認日の比較

年	1羽目	2羽目	3羽目	4羽目
2019年	5月25日	5月28日		
2020年	5月16日	5月17日	5月18日	5月19日
2021年	5月20日	5月20日	5月21日	5月24日
2022年	4月27日	4月28日	4月30日	5月2日
2023年	5月6日	5月6日	5月8日	5月10日



生後数時間(左)と生後直後(右)のヒナ

ヒナの成長(2023年)



5月11日

全てのヒナが生まれた翌日。4羽目(最後尾)のヒナはまだ餌の取り合いに参加できない。



5月14日

最も早く生まれたヒナは足の先に爪が生え始めた。



5月18日

体とともに足も発達し、ぎこちなくも歩けるように。



5月21日

生後2週間。この頃から親鳥は餌の時間以外は巣にいないことが多い。



5月24日

白い産毛が抜け落ちて、幼鳥の羽(幼羽)が生え始めた。



5月30日

巣立ちの準備運動か、羽ばたきを繰り返すようになった。



6月3日

頭部にも幼羽が生え、大人の夕からしい顔つきに。



6月9日

生後約1ヶ月。ほぼ完全に幼鳥の姿に変わっている。

ヒナの食事(巣内育雛期)



ヒナの食事の際、親は狩った獲物が大きい場合は巣に運ぶ前に別の場所で羽や頭などをむしり、ヒナが食べやすくしてから持ってきます。ヒナは成長するまでは自分で大きな餌を引き裂いて飲み込むことはできないため、親が餌を少しずつ口移しで食べさせます。

園内では生後3週間ほどから、時折、ヒナ自身で餌をついばむようになりますが、一つの餌を完全に自分の力で食べきるようになるのは巣立ち間近の時期です。(この時期も親に口移しを受けないわけではありません)。

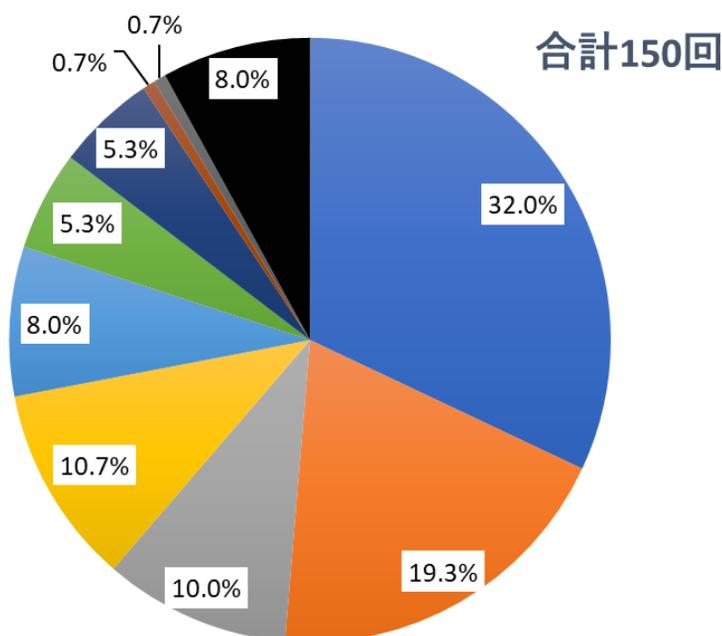


ネズミを与えられるヒナたち

餌生物の内訳

2021年までは、自然教育園でヒナに与えているもののほとんどが他の鳥類で、時々ネズミやモグラなどの哺乳類が混じることがわかる程度でした。2022年からはカメラの位置を調整して、具体的な鳥の種類もある程度はわかるようになりました。

2023年には、園内外の研究者の協力の下、詳細な分析を行い、ヒナが巣立つまでにどんな鳥類を食べていたのか、ほぼ明らかにすることができました。その結果、全体の約6割がキジバト・ドバト(カワラバト)といったハト類であり、ムクドリとスズメがそれぞれ約1割、ヒヨドリとメジロはそれぞれ1個体だけでした。ネズミ類を含めてもそれほど餌の種類が多いわけではなく、街中でもよく見られるような種類の生物を食べていることがわかりました。特にキジバトやドバトはよく群れで見られるため、狙いやすいのかもしれませんが。



■ キジバト ■ ドバト ■ ハトの仲間 ■ ムクドリ ■ スズメ
■ クマネズミ ■ ドブネズミ ■ ヒヨドリ ■ メジロ ■ 不明

2023年における餌生物の種類ごとの運搬回数

巣立ちとその後（巣外育雛期）



誕生から約40日後、幼鳥（ヒナから成鳥までの中間）となったヒナが巣立ちします。この時期になると、体の大きさは親とほとんど変わりません。

オオタカの巣立ち

幼鳥になると、まず巣のかかっている木の枝にとまるようになり、その後、他の木の枝に飛び移るようになります。他の木の枝に飛び移った後は、徐々に遠くへ行くようになり、やがて巣には戻らなくなります。

巣立ち日についての定義は明確に決まっておらず、

- 巣から他の木の枝に飛び移った日
 - 一日の大部分を巣外で過ごすようになった日
- などが使われています。

幼鳥は1度に巣外に出始めるのではなく、最初の幼鳥が出た後、残った幼鳥が数日おきに出るようになります。

2023年は6月12日に1羽目、13日に2羽目、3羽目、15日に4羽目が巣立ちました。



巣から飛び立つ幼鳥



幼鳥の枝移り

巣立ち後の親子

巣立ちの後は、親子とも時折巣に戻ることはありますが、基本的には巣の外で生活します。

巣の外でもしばらくは親が面倒を見て、狩りのやり方などを教わりながら徐々に自立（独立）するようになります。

巣立ちから約1ヶ月後、独立した幼鳥は自分の縄張りを探しに旅立ちます。繁殖期が終わった後は親も巣には寄りなくなります。オスは行動範囲を大きく広げながらも時折繁殖した場所に戻ってきますが、メスは基本的に戻らず、別の場所で過ごします。

ただし、幼鳥の一部は繁殖した場所に留まり続けることもあるようです。園ではここ2、3年は9月以降、幼鳥1羽がオスの親とともに見られ、池で水浴びをする姿などがしばしば目撃されています。



オス（親）の水浴び



マツの枝にとまる幼鳥

オオタカのことをもっと知りたい！

Q&Aコーナー



スダ爺&めばえん

去年までの展示でみんなからもらった質問について
オオタカたちに聞いてみたぞ！



めばえん

Q1.自然教育園では、ヒナたちはどんな餌を食べているの？

A1. ボクらのときにお父さんやお母さんがもってきてくれたのは、他の鳥がほとんどで、たまにネズミやモグラって感じだったよ！

鳥の中では、ハトのなかま(キジバトやドバト)が特に多くて、次にムクドリ、スズメが多いよ。町の中でもふつうにたくさん見られるような鳥を狙っているみたい。



キジバト



ムクドリ



スズメ



オオタカのヒナ
タカシくん

Q2.毎年、巣立ったヒナ(幼鳥)たちは園から出た後は
どこへ行くんじゃないかな？

A2. 巣立った子はかなり遠くまで飛べる力があるから、どこまで行ったのかはわからないなあ。よそでは巣立った後、なんと500km以上離れた場所まで移動した子もいるらしいよ。

ただ、巣立った子のうち、毎年1羽は秋ごろ、ここに帰ってきて、次の子育ての準備期間(2月ごろ)まで僕と一緒にいるよ。



オオタカの父
タカオさん



スダ爺

Q3.巣はいったいどこにあるのか、教えてほしいな！

A3.園路からは見えない森の奥の高い木にあるのよ。でも、くわしい場所はちょっと教えられないわ……。

実は私たちにとって、子育て中にたくさんのヒトの視線やカメラを向けられることはとてもストレスになるの。もしも、他の場所でタカがいた場合も無理に巣を探さずにそっとしておいてね。



オオタカの母
タカコさん





Q4.オオタカのオス、メスと言われても違いがわからないんじやが、見分けるコツとかはあるのかの？

A4.大人(成鳥)も私たち(幼鳥)も、大きさである程度は判別できるわ。体の大きさはメスの方が大きく、体全体に対して頭だけ大きく見えるのがオス。

大人の場合は、羽の色や眉の太さなどでも判別できるから、下の写真を参考にしてみてね。

※大きさや羽色の濃さなどには個体差があります

- ①眉の太さ
メス>オス
- ②腹の模様の太さ
見やすさ
メス>オス
- ③羽の色の濃さ
オス>メス



オオタカの幼鳥
ヨウコさん



Q5.オオタカのビデオはどうやって撮っているの？

A5.オオタカが巣造りを始める前、ほとんど巣に来ない時期に、監視カメラを巣の真上と少し遠くから全体が映るように仕掛けました。

そこからこの場所までケーブルを数百メートルほど引っ張って、リアルタイムに映像を確認、録画できるような仕組みにしています。



観察している人
エンドウさん



Q6.巣はかなり高いところにあるようじやが、カメラをつけるときにどうやって近くまで登ったんじや？

A6.ツリークライミングという技術で、巣の近くの枝に専用のロープをかけ、宙に吊られながら登っていきます。

一見、危なく見えますが、ハシゴなどよりも安全で、オオタカの巣を壊す危険も少ない方法です。



巣まで登った人
タナカさん

2024 自然教育園

オオオタカの子育て

自然教育園で数年にわたり調査されたオオタカの子育てを、映像や写真と共に紹介します



4月27日(土) ~ 7月7日(日)

会期中休園日 毎週月曜日

*ただし4/29(月)、5/6(月)は開園 5/7(火)は休園

開園時間

9:00~16:30 [-4/30]

9:00~17:00 [5/1~]

* 入園は 16:00 まで

入園料金

320円

高校生以下・65才以上・障害者の方とその介護者1名まで 無料

* 会期等に変更になることがあります。詳細はホームページでご確認ください。

お問合せ先 ☎ 03-3441-7176



自然教育園



国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

天然記念物及び史跡

科博 自然教育園

(港区白金台)

Institute for Nature Study, National Museum of Nature and Science

本作は、2024年4月27日～7月7日の期間、
国立科学博物館附属自然教育園にて開催された
企画展「2024自然教育園オオタカの子育て」の展示パネル
をデータ化したものです